

令和8年10月5日（月）【秩父市長 職員向けメッセージ】

皆さん、おはようございます。

日々、秩父市民の皆様のために、また秩父市に関わるすべての方々のために、それぞれの職務に力を注いでくださっていることに、心より感謝申し上げます。

本日は、私が市政に向き合う中で、基本的な考え方としている「個性ある地域の力を活かして、わかちあいの秩父」をつくるという中の「個性ある地域の力」について、少しお話をしたいと思います。

私が考える「個性ある地域の力」とは、より明確に言えば、「場所と人の力」です。

私たちが暮らす秩父という場所は、世界のどこにも同じものがない、唯一無二の場所です。

そして、秩父市という一つの行政区域の中にも、たくさんの「場所」があります。

平成の大合併前には、現在の秩父市の市域には、秩父市、吉田町、大滝村、荒川村がありました。

さらに歴史をさかのぼれば、明治22年、1889年頃の現在の秩父市域には、大宮町、原谷村、尾田蒔村、高篠村、大田村、影森村、浦山村、上吉田村、下吉田村、中川村、白川村、大滝村など、それぞれの地域がありました。

それぞれの地域には、それぞれの歴史があり、文化があり、風習があります。

そして、それは現在も確実に息づいていると思います。

学区や町会やより小さな区など、もっと身近な単位で見ても、それぞれに雰囲気が違い、それぞれの個性があります。

私は、こうした違いの源泉が、地域の力なのだと捉えています。

「場所」というものは、長い時間の中で、人と自然との関わりによってつくられてきたものです。

山や川、地形、気候といった自然があり、そこに人々が暮らし、仕事をし、産業が生まれ、祭りや食、言葉、暮らしの知恵などが育まれていきます。

そして、それらが世代を超えて積み重なって、その土地ならではの文化や風土が形づくられていきます。

私は、こうしたものを、その「場所」が持っている文化であり、力なのだと考えています。

同じ秩父市の中でも、山の環境、水の流れ、交通、産業の歴史などが違えば、人々の暮らしも変わります。

暮らしが変われば、文化も変わります。

そうして、それぞれの場所に、それぞれの個性が生み出されてきます。

だからこそ、まちづくりを考えるときには

「この場所には、どのような歴史があるのか」

「どのような文化が育ってきたのか」

「どのような人が暮らしているのか」

「この場所だからこそできることは何なのか」

を、観察し、その力を発揮させようとするのが大切だと考えています。

その場所が持つ力を見つけ、それを現代の暮らしや新しい時代の価値につなげていく。

これからの地域づくりには、そうした視点がますます重要になると考えています。

そして、もう一つが「人」です。

その土地の風土の中で生まれ、育ち、暮らしてきた人たちは、その土地の文化や歴史、価値観を受け継いでいます。

そして、そこに新しいものを加え、新しい文化をつくり、次の世代へつないでいきます。

そう考えると、秩父という場所で育まれた文化の中に生きる一人一人の人もまた、世界で唯一無二の存在です。

「場所」と「人」は別々のものではなく、場所が人のかたちづくり、人がその場所の文化をつくり、育てていく。

そのような場所と人を見る視点から、「ないものを探す」のではなく、「すでにあるものを見つけ、その価値を高める」。

そして、それぞれの場所、それぞれの人が持っている力をつなぎ、わかちあいながら、新しい価値を生み出していく。

このような発想がこれからの秩父市のまちづくりにとって、大変重要であると信じています。

ただ昔の形を残すだけではなく、そこに現代的な新しい価値を加え、未来につないでいく。

そうすることで、秩父市にしかない「場所の力」と「人の力」は、これからの時代にさらに大きな力になると私は考えています。

個性ある地域の力、すなわち「場所と人の力」を最大限に活かし、わかちあいながら、世界に一つしかない秩父をつくる。

これが、私が多くの皆さんと一緒に目指していきたい秩父市の未来です。

皆さんも、それぞれの持ち場の中で、場所と人の力について考え、想いを馳せていただければ嬉しいです。

ここ数日で急に秋らしい陽気を感じるようになってきました。

体調にはお気をつけいただき、それぞれの職務に邁進していただけることを願っています。

ありがとうございました。